第２学年○組　道徳科学習指導案

指導者　重松　直綾

１　日　時　　令和５年８月８日(火)　10:20～11:50
２　場　所　　松前町総合文化センターふれあい学習室
３　教材名　　「海と空－樫野の人々－」(日本文教出版)【C－18　国際理解、国際貢献】
４　ねらい　　授業でそれぞれの救助に携わった人々の思いについて考えさせることを通して、どの国の人々も同じ人間として尊重する人間愛の精神に基づき、国際人として共生していこうとする態度を育てる。
５　本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◎評価
導入	１　「私」がイランから脱出した事実とその背景であるエルトゥールル号遭難についてその関係性を理解する。	○中東の地図と日本の地図を掲示、位置関係と飛行機や船のイラストを用いて解説する。(プロジェクターかテレビ投影)	・それぞれの史実について理解し、登場人物と共感できるようにする。
展開	あらゆる人が共生する国際社会を実現するために大切なこととは、何だろう。		
	２　教材「海と空」を読んで話し合う。 (1)　範読を聞き、樫野の人々がトルコの人々に行ったことを確認し、トルコの人々の思いについて考える。	○なぜトルコの人々は日本人を助けてくれたのだろう。 ・日本が昔助けてくれたから。 ・過去に日本がしてくれたことへの恩返し。	・イランがどれだけ危険だったかを併せて伝える。
	(2)　樫野の人々がトルコの人々に行ったことを確認し、樫野の人々の思いについて考える。	○樫野の人々が行ったことは何だろう。 ・食料をあげた。 ・着るものを渡した。 ・一晩中体をさすって温めた。	・樫野の人々も厳しい状況の中であったことを伝えることで、トルコの人々と同じであることに気付かせる。
		◎自分の生活を犠牲にしてまで、なぜここまでできるのだろう。 ・目の前の困っている人を助けたい。 ・自分たちができる最大限をしたい。	・「生活を犠牲にする」ことに着目させることで、実現させるのは難しいという揺さぶりを掛ける。
	(3)　樫野の人々とトルコの人々の思いの共通点について考える。	○トルコの人たちが助けたのは、恩返しからだけだったのだろうか。 ・祖先が日本の人に助けてもらったことで、困っている人がいたら助けることが、当たり前になっていた。	・トルコの人々の思いを多面的・多角的に捉えることができるように、切り返し発問を準備しておく。
		○樫野の人々とトルコの人々に共通する思いはなんだろう。 ・誰彼の別なく助けたい。 ・大切な命を守りたい。	・机間巡視の際、行為の奥にある思いを考えることができるように適宜助言する。
終末	３　今日の学習を振り返り、課題について自分自身で考えたことをまとめる。	○あらゆる人が共生する国際社会を実現するために大切なこととはなんだろう。	・考えを共有するために、タブレットを活用する。 ◎どの国の人々も同じ人間として尊重する人間愛の精神に基づき、国際人として共生していこうとする態度が育ったか。 (ワークシート)

６　研究の視点
○　樫野の人々とトルコの人々の共通する思いについて話し合ったことが、あらゆる人が共生する国際社会を実現するために大切な態度を考えるのに有効であったか。